

素粒子論グループの皆様

ポスドク実態調査(第4回) についてのアナウンス

ポストドクフォーラムの活動としてこのたびポストドク実態調査(第4回)を行うことになりました。99年11月に行われた第3回に引き続くもので、再度ポストドク問題に対する問題意識を喚起するとともに、過去のデータと比較しポストドクの人数の推移やポストドクに迫られている選択などを明らかにしたいと考えています。

みなさまの研究室のポストドク、あるいは連絡責任者の方へ以下のようなアンケートをお送りしています。ポストドク問題解決の一つの活動と考えておりますので、みなさまのご協力をお願いします。

アンケートの結果はsg-1にも公表したいと考えています。同時に3月29日午後に行われます、物理学会 社会的責任分科シンポジウム「ポストドク1万人計画と研究体制—若手研究者の現状と悩み—」においても活用させていただきます。

ポストドクフォーラム アンケート係

締め切りを3/16(金)とさせていただきますので、ポストドクの方あるいは連絡責任者の方、よろしくお願い致します。

研究室連絡責任者様

ポストドクフォーラム
<http://www2.yukawa.kyoto-u.ac.jp/~pdforum>

第4回 ポスドク実態調査のためのアンケート

拝啓

新世紀をむかえ、ますます研究に邁進されていることと思います。

周知のごとく大学院重点化が実施され大学院生が増加したものの研究職自身は増加していません。PD学振などの任期付きの研究員制度がある程度拡充されましたが、任期終了後の受け皿がなく、高度な知識を習得し重要な研究活動を継続できる人材が研究を諦めなければならない状況があります。また、海外に研究場所を求め日本を離れる研究者が増加しています。

若い研究者を長年に渡って先の見えない状況に置くことは優秀な研究者を育成する上でマイナスになります。任期終了後の研究活動の保証、社会へ専門知識を

生かす場の保証が必要です。

そこでわが国の素粒子・原子核理論の分野のポストドク研究者の現状を客観的に把握する目的で素粒子論グループの各研究グループを対象にアンケートを実施したいと思います。

このアンケートは、99年11月に行われた第3回目の調査に引き続き、第4回目となります。今回のアンケート調査結果と、以前のアンケート結果との比較により素粒子・原子核理論分野におけるポストドクの増減の状況等が明らかになり、ポストドクがどのような選択を迫られ選択していったのかが浮き出てきます。具体的に何%のポストドクが研究を続けていくことができるかが分かります。

さらにポストドクの増加とこれに伴う就職難が認識され議論はされてきていますが、それを解決する具体的な運動へとはなかなか結びついていません。ポストドクの置かれている困難な状況を客観的に把握し、対外的にポストドク問題を認識させる事が、ポストドク問題を解決へと導く第一歩になるものと信じています。

また素粒子懇談会においてしばしば議論となる、地方と中央における研究環境の格差の実態を調べるため、今回特に学術振興会の採用状況を調査します。また大学院生修了時の就職状況を調査することで現在大学院生の何%がポストドクとして研究者を目指しているかを調査します。

アンケート項目が細かくなっておりますが、皆様のご協力をお願いします。

では次の「記入要項」をご参考に、以下のアンケートにご記入の上、「cut here」ではさまれた部分を切り取って、電子メールにてご返送下さい。宛先および〆切は、次のようにさせていただきます。

宛先： ブロック責任者もしくは、thirayam@post.kek.jp

〆切： 3月16日(金)

アンケートの結果は、まとめ次第、sg-1、sg-pd 及びホームページ上で御報告致します。ただし、全国の大学についての総和などは公表しますが、個人のプライバシー等に配慮し各研究室ごとのデータなどは公表しません。

また3月に行われる学会でのシンポジウムで活用させていただきます。

アンケートの集計の際に合わせて sg-pd への参加を博士課程の学生に声をかけて下さるようお願いいたします。

それでは、ご協力、宜しくお願い致します。

敬具

(2001年1月1日現在での状況)

グループ ID: ○○○

研究グループ名 (group): *

以下は適応する数字でお答え下さい。

Q1. 分野 (素粒子: 1 原子核: 2 その他: 3)

A1: ___

Q2. 機関 (1. ドクターコースあり, 2. ドクターコースなし)

A2: ___

Q3. スタッフの数

A3: ___

Q4. ポスドクの数

(注: 最初に全体数、後半部分には有給者の数を書いてください。

また最後の欄には有給者の中の学振受領者数を書いてください)

 : 全体数 : 有給 : 学振

PD 1年目 : _____ 人 : _____ 人 : _____ 人

PD 2年目 : _____ 人 : _____ 人 : _____ 人

PD 3年目 : _____ 人 : _____ 人 : _____ 人

PD 4年目 : _____ 人 : _____ 人 : _____ 人

PD 5年目 : _____ 人 : _____ 人 : _____ 人

5年以上 : _____ 人 : _____ 人 : _____ 人

Q5. 学生の数

(注: 最初に全体数、次に育英会の奨学金を受け取っている人数、

最後の欄に学振受領者数を書いてください)

 : 全体数 : 育英会 : 学振

DC 1年目 : _____ 人 : _____ 人 : _____ 人

DC 2年目 : _____ 人 : _____ 人 : _____ 人

DC 3以上 : _____ 人 : _____ 人 : _____ 人

Q6. 学振採用状況

(注: 申請時に所属していた研究グループで数えてください)

Q6.1. PD 学振の採用状況

'00年度の春に： ___ 人応募し：___人採用された

'99年度の春に： ___ 人応募し：___人採用された

'98年度の春に： ___ 人応募し：___人採用された

Q6.2 DC2 学振の採用状況

'00年度の春に： ___ 人応募し：___人採用された

'99年度の春に： ___ 人応募し：___人採用された

'98年度の春に： ___ 人応募し：___人採用された

Q6.3 DC1 学振の採用状況

'00年度の春に： ___ 人応募し：___人採用された

'99年度の春に： ___ 人応募し：___人採用された

'98年度の春に： ___ 人応募し：___人採用された

Q7. 最近3年の就職状況

Q7.1 博士過程終了直後の人

(注：この春からの予定者も入れてください)

卒業者数 : 研究職 : 教育職 : 有給PD : 無給PD : 企業

'01年春: _____ 人 : _____ 人 : _____ 人 : _____ 人 : _____ 人 : _____ 人

'00年春: _____ 人 : _____ 人 : _____ 人 : _____ 人 : _____ 人 : _____ 人

'99年春: _____ 人 : _____ 人 : _____ 人 : _____ 人 : _____ 人 : _____ 人

'98年春: _____ 人 : _____ 人 : _____ 人 : _____ 人 : _____ 人 : _____ 人

研究職 ; 研究機関、研究室に専門の学生がいる大学のスタッフ

教育職 ; 研究室に専門の学生がいない大学、短大、高専等

有給PD; 学振PD、COE、任期つき助手、海外のPD等

企業 ; 民間会社、公務員

Q7.2 ポスドク (その年度中に職を得た人の数)

研究職 : 教育職 : 有給PD : 企業 : その他

'00年度: _____ 人 : _____ 人 : _____ 人 : _____ 人 : _____ 人

'99年度: _____ 人 : _____ 人 : _____ 人 : _____ 人 : _____ 人

'98年度: _____ 人 : _____ 人 : _____ 人 : _____ 人 : _____ 人

研究職 ; 研究機関、研究室に専門の学生がいる大学のスタッフ

教育職 ; 研究室に専門の学生がいない大学、短大、高専等

有給PD; 学振PD、COE、任期つき助手、海外のPD等

企業 ; 民間会社、公務員

その他 ; 行方不明等

Q8. 海外へのPD進出と海外からの流入

	海外へ		海外から
'00年度:	_____ 人	:	_____ 人
'99年度:	_____ 人	:	_____ 人
'98年度:	_____ 人	:	_____ 人

及び現在海外にいるポスドク（知っている限り書いてください。）

-----、-----、-----、

=====

以下は御自由に意見をお書き下さい。

Q9.1 研究に対して；(研究環境、成果)

Q9.2 ポスドク問題について；(学振、COE)

Q9.3 海外との比較；

Q9.4 海外への流出について；

Q9.5 停年延長について；

Q9.6 就職難について；

Q9.7 研究者の流動性が少ないこと；

Q9.8 大学院生の声；

Q9.9 その他何でも；

=====

----- cut here -----

「御意見」はできるだけ記入をお願いします。素直な意見ほど重要なことはありません。